

柳戸農場での教育連携授業の報告

新津伊織

岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター

岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センターは、岐阜県や他大学との連携による講義や体験型実習、共同研究の推進を通じて、地域および日本の畜産業や産業動物関連獣医師への貢献に取り組んでいる。本稿では他大学との連携による講義の一環として行った、岐阜市立女子短期大学との教育連携授業について報告する。

Key Words : 他大学との連携, 農場実習

1. はじめに

岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター(以下、GeFAH)は岐阜県と連携し、家畜衛生教育と研究を推進する目的で2015年4月に設置された。2017年6月には岐阜大学柳戸キャンパス内に岐阜県中央家畜保健衛生所・高度病性鑑定センターが移転し、その3階にGeFAHの実習室、研究室、解析室が置かれ、岐阜県との連携が強化された。

GeFAHは岐阜県や他大学との連携による講義や体験型実習を通じて、家畜衛生学関連教育を充実させ、産業動物に興味をもつ学生の増加を目指している。また、共同研究の推進を通じて家畜衛生レベルを向上させ、地域への貢献、さらには日本の畜産業と産業動物関連獣医師への貢献に取り組んでいる。本稿では他大学との連携による講義の一環として行った、岐阜市立女子短期大学との教育連携授業について報告する。

2. 授業の対象

教育連携授業は岐阜市立女子短期大学食物栄養学科の2年生58名を対象に行った。岐阜市立女子短期大学食物栄養学科では解剖学、生理学、生化学、食品学、食品加工学、食品衛生学、栄養学、調理学、公衆衛生学等を学んでいる。これらの講義により、栄養や食生活の面から健康について学ぶばかりでなく、人体の構造と機能、食品と衛生、各種疾病の予防や食事療法、栄養の指導、給食の運営等様々な分野の高度な専門知識を身に着けている。

教育連携授業では、岐阜市立女子短期大学では経験することのできない、食品を生産する第1次産業の現場を見学・体験することを目的としている。このため、岐阜フィールド科学教育研究センター(以下、フィールドセンター)柳戸農場にある講義室および牛舎、鶏舎で本教育連携授業を行った。

3. 授業の内容

(1) 柳戸農場の紹介

柳戸農場の紹介では GeFAH・フィールドセンター併任教員である八代田真人教授がフィールドセンターおよび柳戸農場について紹介した。フィールドセンターは柳戸農場と柳戸試験林、美濃加茂農場、位山演習林の4か所で構成されていること、教育や研究の場として大学および地域社会に貢献していること、また、酪農・養鶏・果樹・作物・花卉・蔬菜・加工製造・農業機械等の管理・運営を行っていること等を説明した。

(2) 講義「草からミルクができるまで」

柳戸農場の紹介の後、続けて八代田教授が「草からミルクができるまで」の講義を行った(図—1)。草食動物のウシが餌としている草の構造、それを細かく磨り潰すための歯の構造、磨り潰した草をさらに効率よくエネルギー源として取り入れるための反芻胃の構造、反芻胃の働きを助ける微生物の種類、血液からミルクを作り出す乳房の構造、そして乳牛がどのように生産され一生を過ごすのか等を説明した。



図—1 講義の様子

(3) 防護服の着用

講義の後は、牛舎や鶏舎を見学する準備として、防護服の着用の理由や方法を岐阜県家畜保健衛生所的小林弘明様から説明してもらい、防護服に着替えた(図—2)。防護服の着用により、家畜の感染症である口蹄疫や鳥インフルエンザ等を持ち込まないように配慮してい

ることを説明した。また、事前に教育連携授業までの2週間以内の海外渡航歴等も確認し、海外からの家畜感染症の持ち込みがないように配慮した。



図—2 防護服の着用

(4) 牛舎見学

牛舎見学ではフィールドセンターの有代直人技術職員が説明した(図—3)。専用の長靴に履き替え消毒した後、牛舎内へ入ること、搾乳した生乳は冷却し衛生的に保管していること等、衛生管理を徹底していることを説明した。また、乳牛は朝夕の1日2回の搾乳を毎日365日行っていること、個体の乳量や状態によって牧草や配合飼料等の餌量を変更していること等の説明を受け、ブラッシングで実際に乳牛と触れ合う体験をした。



図—3 牛舎見学

(5) 鶏舎見学

鶏舎見学ではフィールドセンターの酒向隆司技術職員が説明した(図—4)。専用の防護服や長靴を着用し

石灰で消毒した後に鶏舎内へ入る等、牛舎と同様に衛生管理を徹底していることを説明した。また、産卵鶏は約 24 時間サイクルで 1 回の産卵を行うため、毎日 365 日鶏卵を集計していること、柳戸農場では白玉系と赤玉系、ピンク玉系の品種に加えて、岐阜県の地鶏・奥美濃古地鶏を飼育していること、鶏舎には無窓鶏舎と開放鶏舎があること等の説明を受け、実際に鶏と触れ合う体験をした。



図—4 鶏舎見学

謝辞

本教育連携授業の開催にあたり、ご協力いただきました GeFAH 教員およびフィールドセンター教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

4. おわりに

教育連携授業後にアンケートに回答してもらった。全体的に「おもしろかった」「興味をもった」等の高い評価であった。感想には「牛や鶏に触れる機会はなかなかないので、とても貴重な経験だった」、「自分達が安価で買っている畜産物には人の努力と動物達の命が関わっていることを実感できた」、「講義で学んだことを牛舎や鶏舎で意識しながら見学できたのでよかった」、「多くの人が携わっていることで牛乳や卵等が作られ売られていることが改めてわかったので、そのことに感謝して食べたい」等、プラスの評価をもらった。

一方で、休憩は確保したものの時間的に余裕のないスケジュールであり、牛舎や鶏舎の見学後に気分が悪くなった学生がいたため、来年度からはスケジュールを見直し、さらに休憩時間を確保する等の配慮が必要であることがわかった。